

满铁研究中心资料丛书

解学诗 宋玉印 编

满铁内幕文书

第二十二卷



社会科学文献出版社
SOCIAL SCIENCES ACADEMIC PRESS (CHINA)

「研究中心资料丛书



社会科学文献出版社
SOCIAL SCIENCES ACADEMIC PRESS (CHINA)

开滦、大同和山东矿业

第二十二卷

满铁内幕文书

解学诗

宋玉印

编

图书在版编目 (CIP) 数据

满铁内密文书 / 解学诗, 宋玉印编. — 影印本. — 北京:
社会科学文献出版社, 2015.5
ISBN 978-7-5097-6978-2

I. ①满… II. ①解… ②宋… III. ①南满洲铁道股份
公司 - 文献资料 - 选编 IV. ① K265.610.6

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2015) 第 000224 号

满铁内密文书 (影印)

编 者 / 解学诗 宋玉印

出 版 人 / 谢寿光

项目统筹 / 宋月华 李建廷

责任编辑 / 宋月华 李建廷 马续辉 宋淑洁

出 版 / 社会科学文献出版社·人文分社 (010) 59367215

地址: 北京市北三环中路甲 29 号院华龙大厦 邮编: 100029

网址: www.ssap.com.cn

发 行 / 市场营销中心 (010) 59367081 59367090

读者服务中心 (010) 59367028

印 装 / 北京京华虎彩印刷有限公司

规 格 / 开 本: 787mm×1092mm 1/16

印 张: 1319 幅 数: 21104 幅

版 次 / 2015 年 5 月第 1 版 2015 年 5 月第 1 次印刷

书 号 / ISBN 978-7-5097-6978-2

定 价 / 28900.00 元 (全三十卷)

本书如有破损、缺页、装订错误, 请与本社读者服务中心联系更换

 版权所有 翻印必究

本卷所辑文书解说

本卷是规模巨大、地位特殊的华北三大煤矿的文书，他们的历史足以证明中国煤炭矿业遭受帝国主义侵略掠夺的曲折历程，中国人民不应忘记，需要深入研究。

开滦矿务总局系英资开平公司与中资滦州煤矿公司的联合体。开平煤矿原为中资煤矿，是开办最早、规模最大、成效显著の官督商办煤矿。一八七六年，直隶总督李鸿章派英人矿师马立师勘查唐山开平一带，结果获得七十八方英里丰富优良的煤铁矿，一八七七年「官督商办开平矿务局」出炉，一八八四年日产达九百吨。然而，一八九二年继任者醇亲王侍役张翼为筹措秦皇岛筑港工程费用，招商募股，向外求借，致使开平的总债的百分之四十四为外债所占，英人正是利用这笔高额外债，在一九〇〇的「八国联军」侵华时，用欺骗和讹诈手段，夺取了开平的全部财产和经营权。摇摇欲坠的清政府的两次回收运动，均失败而终。不过，一九〇七年四月，滦州煤矿有限公司诞生，清政府幻想以滦制开，收回开平。回收虽未达成，两处煤矿公司对立局面却已形成。开、滦两矿的纷争终于导致联合经营。但是，联合经营却是丧权辱国的，而联营协定全系滦州公司总办周学熙和袁世凯之子袁克定所为。《联合协定》稍能博得国人原谅之处只有第十七条，该条规定十年后滦州公司可以收回开平全部财产。可是，十年后，时任实业部长的陈公博却主张「与其漏税，毋宁丧权」，于是联合变为合并，英人侵占三十年的利权，清政府未予承认。北洋政府不敢承认，民国政府在三天内就承认了，一九三四年

开滦矿务总局成立。一九二九年开滦煤产量即达四五百万吨，对日输出量从四十七万吨增至八十三万吨。开滦是日本产业生存发展的靠山，也是竞争对手。满铁就曾大量收购开滦股份，以图牵制。‘七七’事变后，日本改变对开滦和井陘的一面‘施压’一面‘收买’政策，收买了井陘的德国资本持股，却使开滦保持原状，维持其在华北煤炭产业中的重要支柱地位，增加对日出口。对日输出量一九四〇年达到一九三六年的三倍。太平洋战争爆发当天，日本即将开滦置于‘军管理’之下。而日本对开滦的‘军管理’是采取两步走的方法，即充分发挥原有机构的作用，因而一直留用孙多钰，但在战后不使英方恢复权利。监督官白川始终代行‘总经理职务’。不过，开滦从一九四三年起也开始减产，得天独厚的劳动力供应条件也开始发生变化，因为粮食的严重不足，使开滦无法维持以实物工资为杠杆的驱使五万余名工人劳动的办法。本卷一《开滦煤矿资料》，大部分来自满铁经调会，它的说明止于一九三六年，同时资料执笔者的立场是从日本出发，特别是从日本与英国矛盾竞争角度来观察开滦煤矿的。最后两条资料，没有署名：一为开滦矿务总局的概要内容，重要之点在于它揭示了开滦产量和对日出口量；二是关于‘军管理’方案，其核心是如何使英国战后无法恢复原有权利，即设立组合式直接会社组织。

日本帝国主义特别看好中国的大同煤矿，他们的大同煤矿开发计划，反映了帝国主义对中国矿业资源的贪婪面目，但其计划难遂。大同煤矿早在清同治年间即已开采，一九一九年小煤矿已有七十七家，公司九家，事变后日军侵入时，只有晋北、保晋两公司开采。关东军东条兵团侵入大同后，由伪蒙疆政府出面，将‘大同煤矿的开采委托给满铁进行’，满铁也企图单独掌管大同煤矿。一九三八年九月华北方面军在敲定华北煤炭业六大集团时，也明确将大同划归满铁，然后后来在华北开发成立时，关东军曾一度反对满铁将资金投入大同，后因沦陷区煤炭不足，在一九三九年大同煤矿会社成立时，满铁投入一千万元。如本卷二《大同煤矿》所示，满铁已有三百余人进入大同煤矿，产销均由满铁人员掌管，特别是满铁理事、抚顺煤矿矿长久保孚于一九三八年年初即抛出了以一九四二年对日出口一千万吨为目标的大同煤矿开发计划，久保为了用大同煤炭解决日本煤炭需求问题，提出了发挥机械力计划，着重建设三百万吨的竖井。然而，大同煤矿费了九牛二虎之力，到四十年代，也只是维持在二百万吨的水平，不及一个三百万吨级标准矿的生产能力。大同煤矿走上了一条无法走通的死胡同，在当时情况下，在完善原有老矿井的同时，大规模建设一系列近代化新矿井，是不可能的。通过物动计划

(即物资动员计划)很难获得所需建设资材,被迫高价私购,严重地制约了建设进程。结果不得不缩减计划,重回以劳动力为中心小规模生产的老路。可是,大同煤矿正在劳动力极端缺乏的地区,在生产和建设的极端困难中,迎接来最后的失败。

以淄博煤矿为中心的山东胶济铁路沿线煤矿,是日本在中国华北煤矿中动手掠夺较早的煤矿,而且由于日本各类资本蜂拥而至,最终山东矿业会社「统制」了胶济铁路沿线煤矿的产销,从而成为日本在华北的最大煤炭集团。一九一四年日本占领山东后,于翌年三月公然实行军政统治,当时满铁藤田虎力理事率二百余人随军活动,八十余名满铁派遣员担任铁路运输,而以阪口新圃为首的派遣队则侵入矿山,后来阪口以山东铁路管理部理事身份当上了淄川煤矿矿长。一九一五年日本的《廿一条》无理要求中国承认日本占有德国在山东的所有权益,一九一八年在巴黎和会上又提出继承德国在山东权益,但因中国的「五四」爱国运动,中国代表拒绝签字。一九二年初的华盛顿会议上,由于签署了《解决山东悬案条约》,中国据以收回大部分主权,但是,日本却以「合办」之名,继续占有矿山权益。一九二三年八月十二日中日合办鲁大公司在天津设立,注册资本一千万元,中方只实缴七十五万元。日本方面参与中日合办的是,一九二三年五月七日新成立的山东矿业会社,该社实质上成为中日合办鲁大公司的控制者。第一,按规定日本应将矿山及财产移交公司,公司应向日本清偿五百万元,但在未清偿前,鲁大公司完全被置于日本政府直接监督之下;第二,除鲁大的总理外,其余董事中日各半,但总理常驻天津,纯属挂名,两名协理之一的中方协理,也常驻天津,于是公司的实权,完全操纵在日方专务董事手中。而在日方的山东矿业会社之中,满铁最初持股为百分之四十四,一九三六年达百分之五十六,从而实现了对山东矿业的统制权。满铁统制山东矿业不但取得对中日合办鲁大公司的权益,而且完全执山东矿业之牛耳。以满铁山田清次郎为董事会长的山东矿业会社,先后收购了山东五大煤矿公司的股份,而且垄断了胶济铁路沿线煤炭的销售。一九四〇年三月胶济铁路沿线煤炭共同销售公司设立。当然自一九四三年起,华北开发取代了满铁的地位。本卷所辑文书为满铁产业部时期对错综复杂的山东矿山权益的调查,也就是到一九三七年的情况:(一)为鲁大公司成立前的状况;(二)是鲁大公司的成立及成立后状况;(三)是(一)(二)没有包括的在淄博煤田和日人利权,和招远金矿的经过与情况,当时这些情况都属于极秘。

本卷目录

一 开滦煤矿资料

总说 三

开滦煤矿沿革 四

开滦煤矿组织经营 三四

开滦矿务总局协定的修改 三七

开滦煤矿与股东关系 四八

满铁收买开平股份经过 五四

开平煤田 五六

劳动关系 六九

开滦煤的需求 七五

开滦煤矿经营状况 八四

开滦矿务总局的纳税 一一八

开滦煤矿与北宁路间诸协议	一二六
开滦煤与其他煤的协定	一八一
开滦的对华借款	一八五
开平公司回收问题	一八八
对开滦煤矿应考察事项	一九三
开滦矿务总局概要	一九八
军管理开滦煤矿受托运营措置要纲(试案第二)	二一一

二 大同煤矿	二二三
--------	-----

山西大同煤矿调查报告	二一四
大同煤矿开发计划	二八六
大同煤矿概要	三七八
大同煤矿线路选定及其他调查	四〇二
大同煤的海上运输	四七七

三 山东煤矿	四八七
--------	-----

山东沿线矿山权益调查(一)	四八八
山东矿山权益调查(二)	五九二
山东省矿山利权调查(杂)	七〇一

一
开滦煤矿资料

九、開瀾炭礦資料

は し が き

一、開瀾炭礦に就ては從來各方面に於て各種の目的を以て調査を企てたやうであるが、同炭礦の行情には秘密に附され居る點多き爲調査上異常の困難を極め綜合的調査を完了したものは極めて稀なるが如くである

二、本稿は昭和四年本社調査課編纂の開瀾炭礦調査資料を始め前記各方面の調査資料及支那側の著書並北支中支に出張し各方面より入手したる貴重なる資料情報等を以て出來得る限り同炭礦の行情現況を明瞭ならしめむとして執筆したものである

三、同炭礦の技術的調査は之を専門家に委ねるところであるが知り得たる限りに於て本稿の企圖する目的上必要と認むる範圍内に於て採録した。又其の沿革に關しては現狀を窺知するに必要な範圍内に於て之を抄録するに止めた。而も稍冗長に過ぐるの幅みあるは其の成立の極めて複雑なるに因るのである

四、開瀾炭礦の行情現況を明瞭ならしむることは短期間に企及し得ないところにして更に取調へ方依頼し置きたる各方面の報告をも併せて之を完成する豫定であるが他方技術的方面の調査の進行を期待する。又開瀾總局の經營する傍承會社、秦皇島其の他に有する諸資産の調査は他の機會に譲る

五、本稿は資料の出所に因り又英支兩國關係者を刺戟するの虞ある點より取扱上嚴秘を必要とする

六、本稿の筆者は經濟調査會第五部調査員田久一である

昭和十一年七月

滿 鐵 經 濟 調 査 會

内 容

- 一、總 說
- 二、開瀾炭礦の沿革
- 三、開瀾炭礦の組織經營
- 四、開瀾礦務總局協定の改正
- 五、開瀾炭礦の資本金及株主關係
- 六、滿鐵の開平公司株買收經過
- 七、開平炭田
- 八、勞働關係

【第三 資料】九、開瀾炭礦資料

【第三 資料】 九、開瀾炭礦資料

一七四

- | | |
|-------------------|------------------|
| 九、開平炭の需要 | 一四、開 の對支借款 |
| 一〇、開瀾炭礦の營業狀況 | 一五、開平公司回收問題 |
| 一一、開瀾炭礦總局の納付金 | 一六、開瀾炭礦に付考察すべき事項 |
| 一二、開瀾炭礦及北寧鐵道間の諸取極 | 一七、結 語 |
| 一三、開平炭と他炭との協定 | |

一、總 說

所謂開瀾炭礦は開平礦務有限公司(*The Chinese Engineering and Mining Co. Ltd.*)と稱する英國會社と瀾州礦務有限公司と稱する支那會社とが各個の有する炭坑の經營を有利ならしむる爲聯合組織により開瀾炭礦總局(*K. M. A. = Kaitan Mining Administration*)なるものを天津に設け之によつて共同管理するものである。而して現在開平公司の資本金百九十六萬磅、瀾州公司の資本金百萬磅にして合計二百九十六萬磅の資本金が表面上總局の資本金である。此の外開瀾社債の現在額其の他開瀾兩公司より總局に投資せる資金及總局の積立金等を加へ約四百八十七萬磅が開瀾炭礦總局の資本總額と推算せらる。

舊契約によれば總局の利益金は三十萬磅迄は開平側六、瀾州側四の割合にて分配され夫れ以上の利益は兩公司折半の定めなるが其の配當率は英國側に於ては積立金及税金の關係等あり每期瀾州側の方多少高率であつた。而も一九三四年九月の新協定によれば兩公司全然同率を以て利益金の分割を爲すこととなつた爲一層顯著となり昨年度の如き開平公司は無配當を決議したが瀾州公司は紙上に株式利益配當廣告を掲載して居るのである。

總局の機關として舊時に於ては督辦(支那政府任命) 議事部(支那人英人各三名) 總經理(英人)の三機關が存したのであるが英國側總經理が經營の全權を掌握して居つた。然るに新協定と同時に督辦制は廢止せられ總經理は英支各一名を任命し同等の

資格を有することゝなつた

開平炭の原價は最近に於て一噸に付坑口原價二元乃至二元半と見積られ之に營業費、税金を加へ山元原價三元六、七十仙となり出炭額毎年四百五十萬噸前後である

總局の營業成績は創設後年と共に良好を加へ其の配當率は開平公司に於ても二割五分、三割に達したことさへあつたが近年北支政情に多大の變化あり其の他經濟界の不況、勞働爭議、支那土炭の進出等により影響を蒙ること甚だしく營業狀況不振である。然れども總局の組織變更、従業員の整理、經費節減等一段落を告げたることゝて將來は支那政局の安定度の如何により多少好轉するに非ずやと考へらる

開瀾炭礦と日本との關係は同炭の日本に於ける特殊用炭としての地位及撫順炭其の他の日本炭との支那石炭市場に於ける競争的立場に存する

然るに滿洲上海兩事變後に於ける支那の高率輸入税の設定は日本炭の輸入を禁止し開平炭を優位に置いた。最近に於ては開瀾礦區は冀東地區に置かれて日本の壓力を感じるに至り日本係り顧問及日本人顧問を傭聘する等新しき關係を生ずるに至つた。以下開瀾炭礦沿革より順次記述することゝする

二、開瀾炭礦の沿革

1. 概 説

開瀾礦務總局を組織する一分子たる英國開平礦務有限公司の前身開平礦務局は最初海軍用石炭、次で鐵道用石炭を國內に於て供給せむが爲設立せられた國家的性質を有する官督民營の支那會社であり瀾州礦務有限公司の前身たる北洋瀾州官礦公司

も略前者と同一の目的を以て且又前者が既に英國の手に歸したるに對抗して設立せられた半官半民の支那會社である。而して開平礦務局が英國側の奸手段に依て其の手に歸し、其の後開蘭兩炭礦が合同經營に移され英國の支配下に入るに至つた経緯は大様以下記述の通である

2. 開平礦務局の設立

一八七五年（光緒元年）海防の議が起り北洋大臣兼直隸總督李鴻章は海軍用其の他全國の石炭の需要に應ずる爲、開平炭礦採掘調査を爲すべき特許を請ひ一八七六年秋候補道唐廷樞（字は景星、汽船會社招商局總辦）英國鑛山技師モリス等を唐山地方に派遣調査せしめて其の有望なることを知り李は官督民營の裁可を奏請し、一八七七年（光緒三年）（一八七八年とも謂ふ）開平礦務局を設立し、招商章程十二條を定めて資本金天津銀八十萬兩を募集し、同局總辦には唐廷樞就任し、英國人バーネット及キンダー兩人を技師に招聘、先づ唐山に洋式採掘法を以て開坑し爾來炭坑に關する準備著々として進捗した

3. 開平礦務章程

一八八一年（光緒七年）四月二十八日附上諭を以て附與せられた開平礦務章程の要旨は左の通である

- (一) 官督民營タルコト
- (二) 競争採掘禁止區域ヲ十清里四方ニ限ル
- (三) 礦務局ニ屬スル礦業財産ハ其ノ實質ニ於テ清國皇帝ヨリ允許セラレタル借地權タルニ止リ諸稅及報功金ヲ納付スルノ義務ヲ負フ
- (四) 本局又ハ其ノ重役ハ本局ノ財産若ハ諸權利ヲ他人ニ讓渡スルノ權限ヲ有セス

(五) 總辦ハ直隸總督ノ認許ヲ得サレハ新施設ヲ爲シ得ス又上長官憲ノ認可ヲ經サレハ契約ヲ締結スルヲ得ス。

(六) 總辦ハ局務ニ關シ直隸總督ト連署上奏ノ權能ヲ有ス

4. 開平礦務局の發展

キンダー技師は唐山塘沽間約五十哩の運炭鐵道敷設を提案して容れられなかつた爲、唐山を去る約七哩の地點より蘆臺に至る十五哩間の運河を開鑿したが運炭意の如くならず、更に一八八〇年唐山より蘆臺運河の終點胥各庄に至る七哩間の人車鐵道を敷設し、翌年唐總辦の同意を得て廣軌機關車運搬に改め著々炭坑進展を謀り、一八八二年バーネツト死後は(キンダー)技師長となり同年(一八八九年との説もある)唐山を去る五十清里の林西坑を開坑した。其の特許條件は總て唐山に關するものと同様である。一八九四年(一八八四年との説もある)西山坑(現稱唐山西北坑)を開坑し資本を百二十萬兩に増資した。又一八九二年秦皇島が開港せられたが政府は埠頭用地の保護管理を開平礦務局に委任した。同局に於ては官民有土地三十六筆四萬一千二百二十七畝強を買收し借款に依り秦皇島埠頭を設置した。一八九二年(光緒十八年)唐總辦物故し候補道臺張翼(字は燕謀)後任總辦となり銳意運炭河の開鑿、運炭鐵道の敷設、天津、芝罘、上海、營口其の他重要商港に貯炭所の設置等業務の擴張に努めた(彼は之が爲信望厚く一八九八年(光緒二十四年)直隸及熱河礦務督辦に任命せられ間もなく工部侍郎銜を授けられた)

5. 英人放資の端緒

開平礦務局設立後十年即ち一八八四年に至り漸く資金融通窮迫し天津在住の英人某と同礦賣却の申込を爲したが商談條件に折合つかず不調に歸した。其の後一八九九年英商モーリソング支那視察の機會に張總辦と談合の結果新堅坑及秦皇島築港費引當に二十萬磅(年利一割)の外債を倫敦にて募集することに決定し茲に初めて英人が本礦務局に利害關係を有するに至る端緒

を開いた。其の後モーリング等は東方公司（オリエンタルシンジケート）と稱する會社を設立したが更に新設せられた英國開平礦務有限公司（The Chinese Engineering and Mining Co. Ltd.）に之を譲渡した後直に解散した（該會社は事實上於ては主として自其鐵道金礦業者等の組織に係り第二新會社の利益の大部を占有した）

6. 義和團事件と賣渡契約の端緒

開平炭礦發見以來其の炭田の有望なることが天下に公表せらるゝに及び北支那在住の列國利權屋中其の利權の獲得を覬覦しつつあつたもの尠からず、嘗て李鴻章の顧問であり當時天津海關稅務司の職に在つた獨逸人デットリング及同國人ハンネツケン等は其の主要人物である

一九〇〇年（光緒二十六年）當時開平礦務局は資金續かず負債百二十萬兩に達し外資借入を急務としてゐたが、團匪事件突發するに及び開平礦務局に對する各種債權者は之に迫り殊に獨逸銀行は嚴重なる交渉を爲し、他方同局及其の天津、塘沽等に於ける設備が各國軍隊の爲占領の厄を蒙るべしとの危惧の念が當局者の間に生ぜるを見てデットリング一派は好機至れりとなし、時に團匪通謀の嫌疑に因り英艦に拘禁中の總辦張翼を説くに此の際同局を外國人の出資名義に變更するの得策なるを以てした爲、張之に賛同しデを張の代理人として同局を英支兩國の合辦會社に改め英國法規により登記し其の保護を受けることとし、一九〇〇年五月二十八日一切の全權をデに委任したのである

茲に於てデットリングは右代理權に基き英國ビュウイツク・モーリング社駐津代理人米人フーヴァー（他方開平礦務局の技師にも就任してゐた、前米國大統領たりし人と謂ふ）と商議し獨逸人ハンネツケン及イメースの二人を立會人として一九〇〇年七月三十日開平礦務局賣渡契約を締結し同局一切の權利財産をフーヴァーの掌中に收めた

フは賣渡契約調印後急遽倫敦に歸り一九〇〇年十二月二十一日開平礦務有限公司なる英國法規に準據する紙本金百萬磅（一

株一磅)の新會社を設立して同地に登記した。從來半官的性質の同局は茲に於て純民營株式會社の形に變り其の實權は英國人の手に歸し會社の重要事務は在倫敦の重役會議及在ブラツセルの地方會議により決定せらるゝこととなり、支那に於ける業務を管理は天津本部に於ける代理人總支配人ウイン後には同ネーサンに委任せられた。故に支那側にては會社駐清督辦支那人の手に支那總辦一名を任命する權あるも單に空名に葬られたのである

一九〇一年フーヴァーはドウターと共に天津に歸來し更に新契約即ち開平礦務局引渡契約を示し張總辦に署名を迫つた然るに該案は前の賣渡契約に比し頗る絶對的條件であつた爲張は英軍の威嚇的行動並幾多の壓迫に遇つたに拘らず其の調印を拒絶したのであるが四箇月間に亘る險惡なる商議の結果遂に全關係者に於て附帶條件覺書(副約)と共に同時に署名し之を以て本契約の一部と爲すものなることを聲明すべきを條件として二月十日之が調印を終了した。之は後日複雑なる英支間の紛議招來の因を爲すのである

7. 賣渡契約、引渡契約並副約

一九〇〇年當時の天津海關稅務司テットリングが張總辦の委任を受け英國モーリング會社代理人フーヴァーとの間に締結した賣渡契約及一九〇一年張とフーヴァーとの間に締結した引渡契約並副約を抜萃採録すれば左の通である

(1) 賣渡契約

一九〇〇年七月三十日開平礦務局の資産業務を英國の株式會社に引渡し一八六二年所定の會社新條例により英國にて登記せむが爲礦務局はテットリングを代理人とし該局の資産利益及權利を處分するに適當なる全權を與へフーヴァーと契約すると左の如し

一、デ及局所有ノ土地、家屋、機械等ノ資本並一切ノ權利、利益、國家ノ附與セル恩典ヲ擧ゲテ又ハ其ノ後継者或ハ其

ノ指定代理人ニ賣與引渡ス其ノ管理方法ハ本契約下記ノ規定ニ從ヒ取扱フヘシ但シ通商港及開平炭坑以外ノ地ニ在リテ引渡スコトヲ得サルモノハ租借條約ヲ締結シテ取扱フモノトシ條約ハ九九年ヲ期限トスルノ虛名ヲ避ケ滿期毎ニ之ヲ續訂シ租借者ハ永久ニ此獨特ノ權利ヲ有スルモノトス

二、フハモリーング會社援助ノ下ニ一八六二年所定ノ會社新條例ニ依リ一ノ英國株式會社ヲ設立シ開平礦務公司ノ名稱ヲ以テ登記ス成立ノ上ハ本契約ニ依リテ得タル一切ノ權利利益ヲ該會社ニ引渡スモノトス

三、該會社ハ每株一磅百萬株即チ英貨百萬磅ヲ以テ登記資本トシ該局一切ノ資産及負債ヲ承繼ス

四、局ノ舊株券每株百兩一萬五千株ニ對シテハ每一株ニ付會社ノ磅新株二五株ノ割合ヲ以テ引換ヘ舊株主ノ權利利益ヲ完全ニ賠償ス

會社株主ノ權利及責任ハ其ノ新舊ヲ問ハス同様ニシテ毫モ異ルコトナキモノトス

一九〇〇年七月三十日證人立會ノ上記名捺印ス

デットリング 印

フーヴァー、 印

立會人

ハンネツケン 印

イームース 印

賣渡契約附綴

開平礦務局資産表

一、天津東岸埠頭

一、塘沽埠頭

一、牛莊埠頭

一、天津西岸埠頭

一、芝罘埠頭

一、上海埠頭